

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三室中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 反復学習による基礎学力の定着を計る。 <指導上の課題> ICT、スクールタッシュボードの効果的活用。	⇒ 個別最適化された学習を提供するために「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の反復・習熟に取り組む。学習履歴を自分の学習の調整や教師による指導の改善に役立てる。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 自らの考えを他者と交流する際に自信を持つことができない。 <指導上の課題> ICTを効果的に活用した他者との交流や発表の場の設定。	⇒ 「Teams」や「ムーブノート」等を活用し、他者と意見を共有したり対話したりする中で、自分の考えを広げたり深めたりする。また全教科でスクールタッシュボードを使用した振り返りをするなどユニバーサルデザインを意識した取り組みを行う。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「情報の扱いに関する事項」において、特に「話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する」や「本文中の情報の関係性を説明したものとして適切なものを選択する」の問題に課題がみられた。話し合いの話題や趣意を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることや具体と抽象と情報と情報との関係について理解できていなかったりし、日常の中での活用が不十分であると考えられる。 数学の「事象を数学的に解釈する問題」や「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取る問題」に課題がみられた。グラフや図を見て分析し、その傾向を読み取って数学的に考察し話し合う活動が不足していると考えられる。「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」における肯定的な回答の割合は80%であった。子ども主体の学びとなるような授業を今後も継続していく。	
思考・判断・表現	数学の「事象を数学的に解釈する問題」や「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取る問題」に課題がみられた。「数学的に説明をする問題」で課題がみられた。 「数学の授業で学んだことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」における肯定的な回答の割合は48.4%であることから、共同編集等、協働的な学びの機会を適宜確保しながら、身近な事柄に結び付けた導入の工夫や、実際に体験しながら学びを深めていく工夫を行っている。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組んだが、毎授業とはいかなかった。生徒自らの課題を把握し取り組むため、個別に学習計画を立てた。自己の振り返りができる時間を設定しているが、教科によって毎時間取り組んでいないため、学校全体で共有し取り組んでいく。	変更なし
思考・判断・表現	B	生徒の発表の場では積極的にICTを用い、コメントやリアクション機能を使って評価を行った。教科ごとにICTの使用法や成果の報告を行い、情報共有することで様々なアイデアを各授業にて実践し、協働的な学びにつなげることができた。	課題の中で生徒に思考させるものに対し、評価の観点を示すことで見直しを持たせ、教師が毎回フィードバックをし反応を記述する。全教科で振り返りを実施し、生徒が自ら変容を見られるように意識した取り組みを行う。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)